



徳川美術館 名品コレクション展示

令和5年9月26日(火)~12月15日(金)

展示期間 A:9/26(火)~10/15(日) B:10/17(火)~11/17(金) C:11/18(土)~12/15(金)

【第4展示室】

武家の式楽 — 能 —

足利將軍家は、猿樂=能を庇護し、高度に洗練された舞台芸能に育てあげた。大名たちにも大いにもてはやされ、公式行事に演能は欠かせぬものとなった。江戸幕府もこの伝統を承け、舞楽が公家の式楽であったのに対して、能を武家の式楽と定めた。

御殿の広間の前庭には能舞台が設けられており、慶事や公式行事の際には必ず能が演じられ、それを見ながら宴は進められた。そのため大名家には能役者が召抱えられ、各種の曲目に応じられるように、いろいろな装束・能狂言面・小道具が備えられていた。

正月二日(後に三日)には幕府で「謡初め」が行われ、大名家でも年中行事とされた。大名自身も謡い、時には自ら舞うことも必須の教養とされていた。

No.	名 称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
1	能面 小面 黒漆花押	伝出目寿満作	江戸	17-18	A
2	能面 萬眉		江戸	18	B
3	能面 般若 焼印「天下一河内」	河内大掾家重作 個人蔵	江戸	17	B
4	能面 曲見		江戸	18	C
5	能面 中将 焼印「天下一河内」朱漆花押	河内大掾家重作	江戸	17	A
6	能面 邯鄲男		江戸	18	C
7	萌黄地毘沙門亀甲に龍の丸文金襴袷狩衣		江戸	18	A
8	紺地飛雲・巴文金襴袷狩衣		江戸	18	B
9	萌黄地紗綾形に輪花文金襴袷法被		江戸	18	C
10	紫地朝顔・石竹文金襴長絹		江戸	18	A
11	萌黄地蚊帳釣草文金襴長絹		江戸	19	B
12	納戸地扇に蔦唐草文長絹		江戸	18	C
13	嘉珍地鶴亀文直垂		江戸	19	A
14	紺・茶・花色段小紋掛素袍		江戸	18	B
15	蜘蛛巣・柳に燕文染分素袍		江戸	18-19	C
能舞台					
16	紅・水色段秋草文唐織		江戸	17	A
17	赤地七宝に紅葉文唐織		江戸	17	B
18	紅地柴垣に桐・秋草文唐織		江戸	18	C
19	格子と萌黄地亀甲文段替厚板		江戸	18	B
20	茶段替わり松笠文厚板		江戸	17	C
21	赤地秋の野文縫箔		江戸	19	A
22	藤蒔絵葛桶		江戸	19	AB
23	市松蒔絵床机		江戸	18-19	AB
24	黄ビロード地唐花文枕(「邯鄲」用)		江戸	18	C
25	唐団扇		江戸	18	C